

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」令和3年度学園だより

とう 雲 稲 雲

第2号

令和3年5月6日発行

発行者：校長 小貫 崇明



○1年生が学園内を探検！～校長室のソファにすわったよ(^.^)～



4月28日(水)、2年生が1年生をお世話しながら学校を紹介したり遊んだりする「ようこそなかよし集会」(生活科の授業)を実施しました。(左の写真は職員室を訪問したグループ)

2年生と1年生が3～5人のグループを作り、一緒に学園内を探検しました。先生がいる部屋ではシールをもらったり、その部屋についての説明をしてもらったりしました。どの部屋でも、しっかり

者の2年生たちがお行儀良く「失礼します」と入室すると、同じように1年生も先輩のまねをして元気よく「失礼します」と言って入室していました。1年生ははじめて入る部屋ばかりで少し緊張していたようです。1年生も2年生もニコニコ楽しい探検でした。

(右の写真は、校長室のソファにすわった1・2年生たち)



○早期の人権教育が大切です～2・3年生の人権教室～



4月27日(火)、4名の人権擁護委員の皆さんにお越しいただき「人権教室」を実施いたしました。今回対象となったのは2年生と3年生ですので、発達段階にあわせた言葉やDVD教材を使っていたいただき、小さな子どもたちにもわかりやすいお話をさせていただきました。「人権」というキーワードを学んだ子どもたちが、友だち1人1人を大切に、いじめや偏見のない楽しい学校生活が送れるように、学校全体で様々な学年で人権教育に取り組んでまいります。

○5月12日は岩瀬支部陸上大会～無観客大会となります～

5月12日(水)に行われる岩瀬支部陸上競技大会に向け、稲田学園特設陸上競技部は昨年度末より朝練を行ってきました。本番の会場である鏡石町鳥見山陸上競技場での練習も何度か実施してまいりましたが、いよいよ大会が迫ってまいりました。大会では、男子が8種目、女子が6種目にエントリーしています。残念ながら、コロナ対策のため、無観客での大会となります。保護者の皆様の声援はありませんが、コツコツと練習を積み上げてきた自分に自信を持って今できる最高の記録を出してほしいと願っています。(写真は鳥見山陸上競技場でのリレー練習)



○地震を想定した避難訓練～訓練翌日に震度4の地震が！～



東日本大震災から10年、そして2月にも須賀川でも震度5に達する大きな地震を経験したこともあり、4月30日（金）に大きな地震発生を想定した避難訓練を実施しました。1年生から9年生まで、事前に確認していた避難経路を担当の先生の指示どおり落ち着いて避難を完了することができました。

避難訓練の反省会では、避難完了まで3分20秒かかったこと、実際に大きな地震により自宅が壊れたり余震が続くため避難しなければならなくなったりした際は隣の稲田公民館に避難することが想定されること、稲田公民館には最新の施設（水、食料、電気など）があること、家族と離ればなれになっても避難所にいれば迎えに来てもらえることなどを確認しました。

そしてなんとこの避難訓練の翌日、5月1日（土）の10時半頃、宮城県沖を震源とした最大震度5強の地震が発生しました。須賀川市内は震度4程度でしたが、子どもたちは命を守る初期行動（テーブルの下にもぐったり割れやすいガラス窓や倒れやすい家具などから離れたりする、慌てて外に飛び出さない等）は大丈夫だったでしょうか。ご家庭でも、大きな地震の際に命を守るための具体的な行動をぜひ確認いただきたいと思います。

○白牡丹野球大会で連合チームが優勝

中体連支部総合大会を前に、素晴らしいニュースが飛び込んできました。5月1日から行われていた白牡丹中学軟式野球大会で、稲田学園を含む連合チーム（岩瀬、須三中、仁井田）が決勝で須二中を破り優勝しました。最高の結果に学校も盛り上がっています。おめでとう！！



★言葉と生きる（2）

「君たち、漫画から漫画の勉強をするのはやめなさい。一流の映画を観ろ、一流の音楽を聴け、一流の本を読め、そして、それから自分の世界を創れ」 ※鉄腕アトムやブラックジャック等の作者で日本が誇る伝説の漫画家・手塚治虫（てつかさむ）の言葉

新聞等の子どもの将来の夢や職業に関する記事のランキングに、「YouTuber」が入ってくるようになって久しいのですが、最近では鬼滅等の影響か「声優」や「漫画家」が上位に入ります。それで思い出したのがこの言葉です。日本の漫画は世界に誇れる文化ですが、手塚治虫の言葉から、「YouTubeばかりを観てYouTuberになれるのか。自分が楽しいからという理由だけで他人を楽しませられる仕事ができるのか。」という思いを抱きます。もちろん、「好きこそものの上手なれ」という面もありますが、どんな分野でも世界的なクリエイター達は、それまでの人生で経験してきた様々な実体験や多分野の刺激を受け形成された「唯一無二の感性」を武器に、新しい文化を創造してきたのではないのでしょうか。大げさかもしれませんが、稲田学園での日々が子どもたちにとって普通の小中学校では味わえない「感性を揺さぶる」経験となり、今までに見たことも聞いたこともないワクワクするような「新しい世界」を創る、そんな学校に少しでもなっていければと私は考えています。